

地球に

笑顔

グループ全体で環境負荷低減に向けた取り組みを推進し、豊かな地球環境と未来の笑顔を守ります。

- 6** 安全な水とトイレを世界中に
- 12** つくる責任 つかう責任
- 13** 気候変動に具体的な対策を
- 14** 海の豊かさを守ろう
- 15** 陸の豊かさを守ろう
- 17** パートナースHIPで目標を達成しよう

「地球に笑顔」への取り組みの詳細につきましては、下記アドレスからご覧いただけます。
<https://www.maruchan.co.jp/csr/environment/index.html>



静岡県賀茂郡西伊豆町田子地域での稚魚放流活動の様子

東洋水産グループが社会と共有する価値

環境対応の推進

① 気候変動への適応とその緩和

気候変動の大きな要因となる地球温暖化に関連する環境負荷の低減を重要な課題の一つと捉えています。事業活動による環境負荷を低減するためにISO14001など環境マネジメントシステムに関する第

省エネへの取り組み

省エネタイプの高効率機器の導入やLED照明への切り替え、エコカーの導入などを実施しています。また、関東工場と埼玉工場、相模工場では専門家による省エネ診断を実施しました。埼玉工場ではさらに社外コンサルタントにもご参加いただき、省エネの推進を行っています。

三者機関による認証取得の推進や当社グループの品質・環境方針に基づいた目標を設定し、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。



埼玉工場

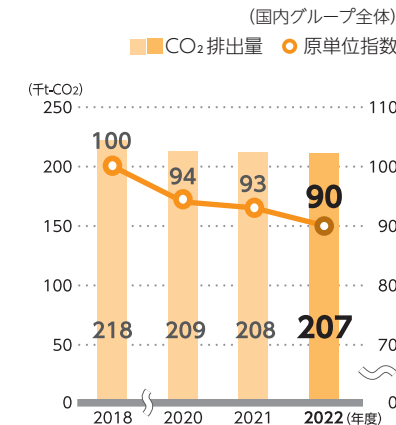
CO₂ 排出量削減への取り組み

CO₂ 排出量削減に向け、各工場や冷蔵庫の設備面では、ボイラー燃料の重油から天然ガスへの転換、フロン冷媒から自然冷媒（アンモニア・CO₂）への更新を計画的に行っています。また、伊万里東洋（株）、フクシマフーズ（株）、関東工場ではバイオマス発電や太陽光発電で作られた電力などの再生可能エネルギーを利用しています。2022年度には、埼玉工場の管理棟屋上に太陽光パネルを設置しました。工場の管理棟で使用する年間電力量の8.5%相当分を発電できる予定です。



埼玉工場の太陽光パネル

● CO₂ 排出量と売上高原単位



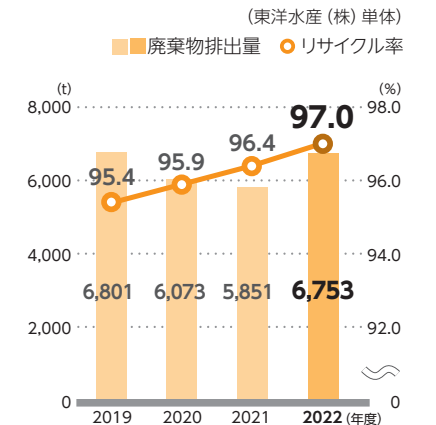
排出量は各事業所において、省エネやエネルギー使用効率の向上に取り組んだ結果やや減少し、原単位も改善されました。

● 産業廃棄物排出量と再資源化率



排出量は各工場での生産性向上に向けた取り組みや有価物化の推進によりやや減少し、再資源化率は99.9%と高水準を維持しました。

● 食品廃棄物の排出量とリサイクル率



排出量はグループ会社からの製造ラインの移管による影響等により増加しましたが、リサイクル率は向上し、目標値95%以上を維持しています。

2 生物多様性の保全

東洋水産グループの創業は水産事業からであり、海洋資源を含めた生物多様性の保全は重要な使命の一つだと考えています。持続可能な資材の調達を通じた生態系の維持、保護への貢献の他、稚魚放流、ウナギの完全養殖の量産・事業化の研究、関東工場へのビオトープの設置など、生物多様性を意識したさまざまな取り組みを行っています。

河川、海洋清掃活動への取り組み

海洋生態系におけるプラスチック問題などを意識し、各事業所において河川や海洋の清掃活動を推進しています。ユタカフーズ(株)では毎年、地元の水辺のクリーン活動を行っており、2022年は76人が参加しました。2022年度からは品川本社部門にて公益財団法人とも連携し、海岸清掃活動「スマイルオーシャンプロジェクト」を開始しました。



2022年10月に実施したスマイルオーシャンプロジェクト参加者集合写真

3 水資源の保全

「水」は東洋水産グループの事業に欠かすことのできない大切な資源です。持続可能な水資源利用は、環境対応の推進において取り組むべき重要な課題の一つだと考えています。東洋水産グループの各工場では、水の使用量や排水量を継続的に管理するとともに、水の再利用の促進など水の使用量の削減に努めています。

水資源使用量削減への取り組み

銚子東洋(株)では、節水ノズルの取り付け、フリーザーの洗浄ノズル2系統を1系統に集約するなどの取り組みを行い、工場全体として一日の水平均使用量が140tから115tへ約18%減少しました。また、海外ではマルちゃん味の素インド社においてボイラー水の管理方法を変更し、水質の改善により、廃棄する水の削減を行っています。



銚子東洋(株)

● 環境負荷データ(グループ全体)



※ 物流は、省エネ法(特定荷主)における東洋水産(株)単体の適用範囲より算定